

令和6年度男性の家事・育児推進事業 開催報告書

全国と同様に香川県においても、加速度的に進む少子化に歯止めがかからない中、社会全体で子どもを育む機運の醸成が求められており、仕事と子育ての両立ができるよう、社会全体で応援していくことが必要です。共働き・共育てが定着されつつあり、今後も男性の育児休業取得率が増えると予想されますが、男性が育児休業を取得する際に、いわゆる「とるだけ育休」にならないよう、家事・育児の仕方について学ぶ機会を提供する実践講座を県内8か所で開催いたしました。

【日時・場所】

7月30日 (火)	高松市 讃岐おもちゃ美術館こうぼう	49名 (男性8名、こども26名)
9月7日 (土)	土庄町 きよみ保育園	26名 (男性7名、こども11名)
10月11日 (金)	高松市 高松大学・高松短期大学	16名 (男性12名)
10月20日 (日)	さぬき市 志度公民館	28名 (男性7名、こども13名)
11月2日 (土)	高松市 高松大学・高松短期大学	30名 (男性7名)
11月10日 (日)	丸亀市 岡田コミュニティセンター	45名 (男性23名)
1月11日 (土)	三豊市 マリンウェーブ	14名 (男性4名、こども6名)
1月19日 (日)	高松市 讃岐おもちゃ美術館Café	22名 (男性14名)

【延べ人数】 230名 (こども含む)

【対象】 妊娠中を含めた子育て中のご家族、学生の方、20～30代の独身の方

【協力団体】 ・一般社団法人 パッククッキングジャパン ・社会福祉法人 清見福祉協会
・さぬき市教育委員会 ・高松短期大学 ・一般社団法人 香川県助産師会
・NPO法人 すくすく

全8回の講座は、県内の子育てひろばや子育て支援センター運営団体、大学等のご協力のもと、子育てイベントや大学祭などの一部イベントとして実施したり、讃岐おもちゃ美術館を利用したり、さまざまな方に受講していただけるよう県内各地で行いました。

『パッククッキング実践講座』 講師：池田 奈央さん



パッククッキング協会ジャパンの池田さんをお招きし、忙しい共働き家族でも協力して家事が行えるよう“パッククッキング”の実践を行いました。パッククッキングとは、耐熱性のポリ袋に食材を入れ、袋のまま鍋で湯せんする調理方法です。時短で離乳食作りや子育て中の食事作りに役立ち、また加熱に使った水が再利用できるなど非常時にも役立つ調理方法です。実践後に、「洗いが少なく、一度に数品の料理ができることに驚いた。」「子どもも夫もできる簡単なメニューで家でもできそう。」との感想をいただきました。また、湯せんの時間を利用して、“家事シェア”について考えたり、育児・家事の悩みを共有したり、“気づき”を得る時間を過ごしたようです。



『探し物なし！ストレスなし！お片づけの基本』 講師：わきや さゆりさん



かたづけ temiru のわきやさゆりさんを講師にお迎えし、片付けがうまくいかない理由やコツを楽しく学びながら、家族みんなが快適に過ごせる方法を一緒に考えました。受講者の方からは「自分のモヤモヤを言語化して理解できてよかった。」「片付けや家族の考え方など、参考になりました。」と感想をいただきました。子どもと一緒にワークを通して楽しみながら学ぶことで、家族の一体感もより一層強まった様子でした。

『夫婦のパートナーシップ講座』 講師：フルイ カズキさん、佐野 崇之さん

また、実際に男性育児休業を取得した経験があり現役で子育てをしている株式会社ヒトニグリの古井さんとNPO法人ファザーリングジャパン会員の佐野さんには、育児休業取得時の家事・育児シェアについて、また夫婦のパートナーシップについて、具体例を挙げて分かりやすくお話いただきました。



プレパパからは「具体的な体験談を聞くことができ、心構えのきっかけになった。」と感想をいただき、またママからは「夫に「ありがとう、ということが少なくなってきたので、忘れないようにしたい。」との感想もいただきました。夫婦でコミュニケーションを取ることで、そしてパパ・ママを楽しむためのコツを一緒に見つける時間となったようです。



さらに、今年度の開催では、プレママ・パパ、子育て中のご家族だけではなく、次世代を担う方々に向けて高松大学・高松短期大学や讃岐おもちゃ美術館 caféにて学生や独身の方を対象に講座を実施しました。“バッククッキング”を通して結婚や子育て、子どものいる暮らしをイメージしたり、香川県内在住でM-1などでも活躍されている“二者面談”のお二人に漫才を通して家事・育児や夫婦間の価値観の違いについてお話いただいたり、楽しみながら考える講座を開催しました。



参加者からは、「子どもの年齢が近いパパと交流ができ、育児の話や意見交換ができ良かった。」「(パパとママが) お互い楽しく過ごせるように、方法を探してみようと思います。」「目的と目標をもつきっかけをもらいました。家族で話し合いたいと思います。」「～を手伝うという言葉を使わずに、一緒にする意識を持って行動したい！」などの感想をいただきました。

夫婦の間でも、良かれと思ってしたことが一方にとっては良くなかったり、求めていることが伝わってなかったり、夫婦で見えているものが違うことをお互いに知り、違う価値観をすり合わせながら歩み寄ることが必要です。また、家事・育児のあり方は各家庭によってさまざまであり、コミュニケーションを取る中でそれぞれの家庭の形ができていくものです。性別に関わらず、家事や育児を共にしていくことが求められる現代社会の中で、家族でたくさんコミュニケーションを取り、そして家事・育児を楽しむためのヒントを得られる講座となったようです。